

基調講演 女性の積極的な社会参画

葉徳蘭博士 女性の権利向上委員会メンバー

女性は世界中のあらゆる場所で人口の少なくとも半分を常に構成してきました。近年、とりわけ大都市圏における女性の社会進出には目覚ましいものがあります。台湾最大の都市、台北も例外ではありません。公式な人口調査によれば、2006年12月31日現在、女性の数は130万人に達し、台北市人口の51.27%を占めています。多くのアジア諸国において、女性は伝統的に社会や経済の発展への完全な参加を阻まれてきましたが、ここ10年ほどの間、台北市では公的部門、民間部門の双方が市の活力への女性の参画・貢献を奨励し、促進してまいりました。こうしたことが、市民社会の市政参加と公共政策立案の足並みをそろえようとする長期的な協調努力に結実しております。女性が市民社会に参加することへの大きな物理的・構造的障害を排除してきた数々の輝かしい実績により、今日、台北市は世界で最もジェンダーへの配慮が行き届いた都市の1つとなっています。改革と行動を求める市民社会の要望に応えようと、市当局が継続的かつ積極的に尽力してきたことがこうした変化を可能にしたのは間違いのないところです。しかし、それ以上に重要なのは、NGOや学界の女性たちが飽くなき粘り強さで、ジェンダーという視点をあらゆる次元の市の政策決定の本流に据え、女性の社会参画を促すのに欠かせない新たな行政措置の実施を監視してきたからこそ、そのような変化が起きたのだ、という点です。ここで例示されている女性のイニシアティブやと政府組織との協力関係は、1990年代以降国連が提唱している政府組織と非政府組織の協力関係の持続可能なモデルを実証するものです。こうした協力関係から得られる挑戦と機会は、21世紀において、有機的、包括的に相互に分かち合える市民社会を構築する上での女性の重要性を物語るものともいえるでしょう。